

会 議 録

会議の名称	平成25年度 第3回 所沢市地域福祉推進検討委員会
開催日時	平成26年2月14日（月）10時00分 ～ 12時00分
開催場所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	大島委員 岡村委員 小田島委員 小原委員 神武委員 柴井委員 仲田委員 難波委員 長谷川委員 福田委員 前橋委員 山江委員 吉田委員 羽鳥委員
欠席者の氏名	広瀬委員
説明者の職・氏名	
議 題	(1) (仮称) 所沢市総合福祉センター整備に係る進捗について (報告) (2) 次期計画に向けた提言について (3) その他
会議資料	①平成25年度 第3回 所沢市地域福祉推進検討委員会 次第 ②資料1：提言書 (素案) ③資料2：委員ご意見・修正案まとめ
担当部課名	福祉部 福祉総務課 地域福祉推進室 電話04 (2998) 9113 福祉部長 本橋 則子 福祉部次長 美甘 寿規 福祉総務課長 北田 裕司 福祉総務課主査 佐藤 尊之 福祉総務課主任 井上 大樹 福祉総務課主任 加賀屋 浩介 福祉総務課主任 小古井 一樹

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
北田課長	<p>1. 開 会</p> <p>開会を宣言した。</p>
前橋会長	<p>2. あいさつ</p> <p>ここまでのやり取りの中で、前回の会議のグループワークで出された意見を、その後に開催したワーキンググループで整理した上で、皆さまから寄せられたご意見も踏まえて、まとめてきた。本日は、それを形にしていくべく、皆さま方のお力をお借りしながら、提言案をうまく作り上げていけたらと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>これまで、事務局は、誠実に、委員の皆さまの声を、それがたとえ小さい意見であっても、一生懸命に表そうとして、まとめてくださっていることを申し添える。</p>
北田課長	<p>○会議に関する説明・資料の確認</p> <p>下記事項の説明を行い、その後、資料の確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の終了予定時刻（午後12時00分） ・会議の公開と会議録の方式（要約方式、会長の承認・署名をもって確定する） ・傍聴希望者0名、報道機関0名
前橋会長	<p>3. 議 題</p> <p><u>（1）（仮称）所沢市総合福祉センター整備に係る進捗報告</u></p> <p>事務局から、ご説明をいただきたい。</p>
佐藤主査	<p>「（仮称）所沢市総合福祉センター」の整備については、昨年12月から、既存の建物の本体の解体工事を開始しており、工事の完了は、3月中旬を予定している。また、各施設の仕様の詳細をまとめる実施設計についても、3月中に完成する予定である。</p> <p>これに合わせて、事業の内容をまとめ、実施計画の策定作業も進めている。その中でも、重要な機能となる「総合相談機能」については、基本計画を踏まえ、「就労のための支援事業」、「権利擁護に関する支援事業」、「福祉に係る相談業務従事者のための支援事業」などを担う方向で考えている。</p> <p>来年度以降については、建築工事に着手するとともに、順次、条例の整備や愛称の募集、喫茶・売店の選定などを進める予定である。</p>
前橋会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、議題（2）に移りたい。</p>

前橋会長	<p>(2) 「次期計画に向けた提言について」</p> <p>本日は、資料として事前に送付のあった提言書の素案をもとに、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたい。初めに、事務局よりご説明をお願いしたい。</p>
佐藤主査	<p>前回の会議後、ワーキンググループにご参加いただいた委員の皆さま、また、参加が叶わなかった委員さんも、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。</p> <p>委員の皆さまからのご意見・修正案を踏まえ、提言書の最終化に向けて、ご意見をいただければと思っている。</p>
	<p>配布資料の内容説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「委員ご意見・修正案一覧」は、1月下旬にお送りした提言書案のたたき台をご覧いただいた上で、内容をさらに取りまとめたものであり、すでに提言書の素案に反映させている内容は、「反映済み」と記してある。 ・資料「提言書（素案）」は、委員の皆さまから事前にお寄せいただいたご意見を反映させたバージョンとなっている。 <p>ここまで、事務局としては、可能な限り、委員の皆さまからいただいたご意見を反映させてきたものだが、全体を通してご覧いただいた時に、中には違和感を感じる部分もあろうかと思う。そうした点についても、ご検討いただければと思う。</p>
前橋会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の資料となっている提言書の素案の内容は、委員の皆さまの、現状の課題認識を踏まえたものであり、前回の会議におけるグループワークで出された意見を分類したものである。本文部分は、A～Dの項目ごとに構成しているので、その順番に、意見を出し合い、内容を固めていきたいと思う。</p> <p>“A 「誰もが大切にされる支え合いの地域づくり」について”</p>
福田委員	<p>(2) に「公民館」という言葉が出てくるが、確認のために、まちづくりセンターと公民館との違いを教えてください。</p>
佐藤主査	<p>所沢市では、平成23年4月から、市役所の組織改編により、公民館と出張所を統合し、地域の拠点施設である、まちづくりセンターを開設した。言わば、施設の名称としてまちづくりセンターがあり、その建物の中に、公民館や出張所の機能があるイメージである。</p>
福田委員	<p>案内表示では「まちづくりセンター（公民館）」と表記されているものがあるが、そうした事情によるものか。</p>

佐藤主査	<p>そのとおりである。公民館が事業を行う場合は、公民館の名称をそのまま使用しているので、併記した形としている。</p>
美甘次長	<p>市では、まちづくりセンターのあり方について、継続的に検討している。ご指摘の部分では、高齢者の集える場所として、公民館を例示したものである。全体を通して、言葉の使われ方や、高齢者・障害者・コミュニティなど各分野の計画との整合性を意識して、内容を精査していきたいと考えている。この後、提言書として提出するにあたっては、文章の構成や表現、バランス、ボリューム等を踏まえ、改めて、内容を事務局で考えさせていただきます。</p>
前橋会長	<p>他にご意見はあるか。</p>
神武委員	<p>(2) では、タイトルに「高齢者など」とあるのに対して、最後の段落の文章は、高齢者に対象を限定した事例を引用しており、整合性がとれていない。</p> <p>(4) のタイトル部分の「互助」という言葉について、元は「共助」としていたものだが、これは、一般的な「助け合い」を意図して使った言葉であり、「互助」とすると、意味が変わってくる部分があるように思うので、元に戻していただいた方がよい。</p> <p>また、同じく(4)の5行目からの文章は、主述関係がわかりづらいので、再構成していただきたい。あわせて、地縁団体だけを強調するのではなく、他の様々な団体も含めるべきではないかと思う。</p>
美甘次長	<p>全体を通して言えることでもあるが、内容に具体的な固有名詞も入っているので、他の、同時期に策定を予定している各分野の計画との整合性もとれるように、協議していきたい。</p>
前橋会長	<p>それでは、文言や文章の構成については、事務局でも再度協議していただくということで、他にご意見はあるか。</p>
小田島委員	<p>(4) の「互助」か「共助」か、という部分については、どちらの言葉も正式に定義づけられているものとは言い切れず、そこまでこだわらなくとも、受け取る側にとって、文意が通るものであればよいのではないか。</p>
仲田委員	<p>(2) については、内容を分かりやすくし、より伝わりやすくするという観点では、細かい事例の部分も付け加えた方がよいのではないか。</p>
羽鳥委員	<p>(2) は、タイトルに「など誰もが」と付け加えたのに対して、文章の内容は、主に高齢者を対象に書いてあるのでわかりづらくなっている。どちらかを削ればよいのではない</p>

	か。
神武委員	<p>そもそも、今回まとめようとしているのは「次期計画に向けて」の提言なので、より大きな視点からの内容にすべきであって、細かい施策や事例などは、計画の中で取り組むこととすればよく、今回の提言内容には含めなくてよいと思う。</p>
前橋会長	<p>提言書としての内容に含めるかどうかは事務局と協議したいと思うが、次の委員会への申し送り事項とすることも含めて、委員の皆さまからのご意見は、全て反映させていただきたい。内容については、提言書の提出前に、皆さまにお送りし、ご確認いただくということで、ご了解いただきたい。</p> <p>“B 「安心・安全なまちづくり」 ”</p>
小田島委員	<p>(3)に関して、1月22日(水)に開催された所沢市障害者施策推進協議会の場で、委員から、「(仮称)所沢市総合福祉センター」(以下、総合福祉センター)で備えることを目指す「総合相談機能」は、そこで受け止めて、関係機関への伝達なども含めて適切に処理する性質のものであり、その場所で受け付けてその場所で解決を図ることを指す「ワンストップ」という言葉とは、ニュアンスが違うのではないかと指摘があった。それを受けて、私の方で、修正案を出させていただいたものである。</p>
美甘次長	<p>只今、ご説明いただいたとおり、現在、所沢市障害者施策推進協議会では、総合福祉センターにおける障害者支援の充実に関する提言をまとめているところである。その中では、福祉に関する全ての相談内容を総合福祉センターだけで解決することは難しいことから、相談業務の従事者が、誰しも一度は相談を受けて、それを適切に繋げることで、相談事例に対する解決の糸口を見つけていくことを進められるよう表現されているものである。</p>
前橋会長	<p>小田島委員からいただいた修正案の内容は、明快にわかりやすく書いていただいております。「各地域のネットワークへつなげる」ことができるシステムの構築につながればよいと思う。なお、本文は修正いただいたのに対し、タイトル部分に「ワンストップ」という言葉が残っているが、これも表現を修正してもよいのではと思うが、ご意見はあるか。</p>
神武委員	<p>タイトルの「ワンストップ」に代わる文言として、「中核的な」と入れるのはどうか。</p>
前橋会長	<p>では、この部分についても、事務局で再度ご検討いただければと思う。</p> <p>“C 『福祉教育の推進』 ”</p>

岡村委員	<p>前提として、なぜ、福祉教育を行うのか、が示されていると理解がしやすい。それをベースに、受け取る側の方の福祉教育への関心を高め、また、福祉教育に対する意識をもってもらうために必要なことは何なのかを提示できればよいと思う。</p>
前橋会長	<p>ありがとうございました。福祉教育について取り組みをされている社会福祉協議会（以下、社協）ではいかがでしょうか。</p>
難波委員	<p>福祉教育については、社協でも取り組んでおり、（４）に関するものも含め、いくつか意見を出させていただいた。内容については、他の項目とのバランスや、全体的な整合性も考慮し、調整をお願いできればと思う。</p>
前橋会長	<p>では、いただいたご意見の内容を尊重しながら、言い回しや文章などの細かい部分については、事務局も含め、調整させていただくということでご了承いただきたい。</p> <p>“D 「計画の推進」 ”</p>
岡村委員	<p>（２）にある「地域で連携した活動が図れるように」という点では、市の地域福祉計画と、社協の地域福祉活動計画（以下、活動計画）との連携が、課題の一つだと考える。</p>
美甘次長	<p>地域福祉計画と活動計画との関係においては、計画の期間や内容を含め、整合性を図ることの必要性を十分認識しており、今後においても、活動計画とどのように連携していくかは、大きな課題のひとつである。共に、これから次期計画を策定し、推進していく上でも、それぞれの計画がしっかりと機能するための連携の方法を検討していきたい。</p> <p>“全体を通して”</p>
前橋会長	<p>では、A～Dまで順番にご意見を伺ってきたが、全体を通して気になる点や、申し送り事項としておきたいこと等があれば、ご意見をいただきたい。</p>
難波委員	<p>資料２の＊印の付いた項目には、社協から提示した内容が多いが、これらは、それぞれの内容をA～Dに分類するにあたって、例えば、A（３）やA（４）の内容は、C「福祉教育の推進」で述べるのが良いのではないかと、という観点で、案として提示させていただいたものである。内容については、全体の中でご判断いただければと思う。</p>
岡村委員	<p>難波委員のご意見にもあったとおり、他の項目の中には、福祉教育の側面をもったものもあると思うが、それを通じて実践に結びつけることが主たる目的であり、ここで分類を再考するというよりは、C「福祉教育の推進」の部分に、福祉教育を推進することの目的や意義を加えることができればよいのではないかと。</p>

吉田委員	<p>福祉教育を推進する方向の中では、その福祉教育に携わる人材の育成も必要だと考えるが、高齢化が進む中で、市全体としてどのように考え、盛り上げていくかを知りたい。</p>
美甘次長	<p>これまで、この委員会においても、アクションプラン（親子福祉講座）の実践や、市内の小学校での福祉教育の現場視察などを実施してきたが、そういった取り組みを通じて、福祉教育を受けた方々が、これから、地域において、ボランティアなどの担い手となっていけばよいと思う。人材育成機能については、総合福祉センターの担う機能の中でも、大きな柱のひとつだと考えており、福祉教育の面でも、それを推し進める側の人材の育成も推進していきたいと思っている。総合福祉センターの実施計画にも、福祉教育のあり方や実践活動などを踏まえて内容を盛り込み、平成28年度の供用開始に向けて、準備を進めたいと考えている。</p>
前橋会長	<p>福祉教育の担い手については、様々な団体、機関、サークル等で担われていると思うが、それらの活動が表面化していない、取り組みが伝わっていない面があると思う。教員養成を進め、その担い手は着実に育ててはいるものの、地域と連携しながら進めるという点で不十分な面があり、結果として、お互いが知り合う機会が不足しているような気がする。</p> <p>他に、ご意見はあるか。</p>
山江委員	<p>A（4）の「共助」と「互助」の言葉の使い分けについては、地域包括ケアシステムの中で明確に分けられて示されたものだったが、今回の提言書をまとめるにあたって、使い分けが難しいのであれば、より意味が通りやすいものにしていただければと思う。</p> <p>D（3）の「会議の一本化」については、課題としては認識しているものの、厚生労働省の指針として、地域ケア会議では個別事例を扱うというように決まっていることもあり、実際には、一本化するというのは難しいのではないか。それを踏まえると、この部分の「一本化」という表現はふさわしくないように感じる。</p>
前橋会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、全体を通じて、本日の会議でいただいたご意見を踏まえ、後日、私と柴井副会長、そして事務局の方で、詰めの作業をさせていただきたい。内容については、全体のバランスや市の施策の方向性なども踏まえ、整えさせていただいた上で、提出前には、最終案を委員の皆さまにお送りし、ご確認いただくこととしたい。また、提言の内容として反映できなかったご意見についても、次の委員会への申し送り事項として、伝えていく形をとることとしたい。</p> <p>では、この第3期の委員会の活動の成果として、提言書をまとめる作業を進めてきたということで、会議として一区切りという意味でも、ここまでご尽力をいただいた各委員が</p>

	<p>ら、一言ずついただければと思う。</p>
難波委員	<p>今年度からの参加となり、あまり役割を果たせなかったと感じているが、委員の皆さまのこれまでの地域での活動や、課題認識に基づくご意見をもとに、形として、すばらしい提言書ができたのではないかと感じている。</p>
長谷川委員	<p>私も今年度からの参加で、また、この計画は難しい問題ばかりであり発言もできなかったが、いろいろ勉強をさせていただいた。本日もお話に出た人材育成という点では、今後は、私たちの世代や子どもたちの世代が全体を支えていかなければならない中で、子どもたちに対する心の教育というか、地域での、お年寄りを支援することをはじめ、一見面倒に思えるようなことが、自分たちのこれからに繋がっているということを教えていかななくてはいけないと感じている。今、地域では中学生がボランティア活動をしているが、そのような活動を通じて、感謝の気持ちや喜びを感じてほしいと思っている。</p>
羽鳥委員	<p>個人的には、勉強不足を感じていたが、しっかりと委員の皆さま方が意見を出し合い、また、事務局もきちんと進めていただけており、素晴らしい委員会だと感じている。会議の場での発言はあまりできなかったが、今回の提言をまとめるにあたっての事前のアンケートや意見出しに関しては、いろいろと書かせていただくことができたと思う。</p>
福田委員	<p>市民公募で参加し、いろいろ勉強もさせていただいた。今後、高齢化が進んでいく中では、若い世代への教育をどうしていくかが課題だと思っている。福祉教育という意味でも、日本全体がボランティアの組織を勉強し、それが浸透していったら、変わっていくのではないと思う。今は、私も地域でボランティア活動に取り組んでいるが、全体として、若い人たちも含めてのボランティア意識がまだ低いように感じている。</p>
山江委員	<p>これまで、地域包括支援センターで、様々な相談を受け止めてきたが、「地域福祉」はいろいろな場面で関わってくると感じる。地域の中でいろいろな取り組みを行う中では、イベントを企画してみても、なかなか相手に伝わらないと思うこともしばしばあった。これから新しい計画を作り、進めていく上でも、発信し、推進する側の「ことば」が、しっかりと受け手にも伝わるようにすることが大事だと思う。</p>
吉田委員	<p>私は高齢者福祉計画推進会議に委員として参加していたが、この委員会に参加してみても、より幅広い分野に関していろいろと話し合っていることを知り、驚いた。先日の大雪に伴い、地域で雪かきを行う様子を見ていると、若い世代にもっとボランティア意識をもって、積極的に関わってもらえるよう、人材育成や福祉教育を進めていくことが大事だと、改めて認識した。</p>
仲田委員	<p>私は、ずっと社会人野球をやってきたことから、スポーツの面から福祉に何か協力でき</p>

	<p>ないかと思い、応募した。その点では、取り上げられる問題として、どうしても高齢者や障害者の事柄が多くなり、若者やスポーツを通じての発展がなかなか見られず、残念にも感じていた。</p> <p>今回の提言の中で、計画を推進していくにあたっての課題は、Dの4項目に集約されているが、今後、総合福祉センターを整備するにあたって、課題はいろいろあると感じている。D(3)に関しては、地域の中の限られた資源のうち重複しているものも多いので、どう整理していくかが重要になる。また、D(4)では、福祉の根本的なところは、「人を思いやる気持ち」であり、自ら地域福祉に関心をもつ意識を醸成していくためにも、それが原点なのではないかと考えさせられた。</p>
神武委員	<p>地域の中で、まず、自分でできることはなんだろうと思い描いて、地域で声かけをして自ら動くことが大事であり、そうしたことを通じて、助け合いの精神を作っていくのが地域福祉だと思っている。次期計画においては、これまで取り組んできた、行政の施策と地域福祉がどう繋がっているかを測るということだけではなく、縦割り行政になってしまっている部分を、少しでも横に繋げることが大切だと思う。所沢市役所が、どこの部署に行っても、スムーズに話が通じるような市役所であってほしいと思っている。</p>
小原委員	<p>地域での活動を通じて思うこととして、会議の一本化も大切だが、それ以前に、同じ会議体であっても、それぞれの地区によって内容がバラバラなことがあるので、その点も統一してほしいと思う。</p> <p>民生委員の活動の中で、地域の中で、自治会といっしょになって活動することも多いが、高齢者の集まりであったり、また、高齢者が高齢者を支える仕組みの中では、どうしても長続きしない面がある。その意味でも、ボランティアを育てていく中で、ぜひ若い人にも声かけをし、意識の啓発を進めてもらって、若い人が活動するようになってほしいと思う。</p> <p>この会議で得た内容を、地域に持ち帰り、参考にして、今後も活動していきたいと思う。</p>
小田島委員	<p>私は、障害者施策推進協議会から参加させていただいているが、近年、障害者たちが、地域の中で主導的に関わりをもつようになってきたこと、当事者としての力強さをもつようになったことを感じている。しかしながら、彼らが地域で暮らす上では、誰かに助けをもらう必要があり、そのような状況のときに、本人たちが、自分が何で困っているのかを、声を出して発信し、それが確実にまわりに伝わるようなシステムづくりが必要だと思っている。また、障害者のもつ悩みというのは、実は一般の方にも当てはまるものであったりすることも多いので、世代や属性に関わらず、地域の中で、協力し合うことができる社会になってほしいと思っている。私も、市民の一人として、これからも地域で貢献していきたい。</p>
岡村委員	<p>これからの若い世代の担い手を育てるという視点で考えれば、まず「機会」をもたない</p>

	<p>と気がつかないことも多く、また、そもそも「関心」がなければ、何も育たないと思う。その意味では、例えば、この委員会のメンバーの構成の中に、「中学生枠」などがあってもよいのではないかと思う。もちろん、同じ生徒が継続して3年間参加するのは難しいとしても、例えば、その時点の生徒会長であったり、スポット的に参加を促すこともできれば、そういった経験が、「機会」としての「気づき」につながり、「関心」を生み出し、ひいては、若い人たちの育成にも繋がっていくのではないかと思う。</p>
大島委員	<p>この委員会に参加させていただいて、まず、間口がものすごく広いと感じ、どのように取り組んだらよいか苦労した。地域では、当事者とまわりの人との関わりの中で、地域全体として暮らし方を変えていくことが必要だと感じており、今後も働きかけていきたいと思っている。また、今後、高齢者がどんどん増えてくる中では、元気な高齢者が、そうでない人を支援していく仕組みを作っていくことが必要だと思う。</p>
柴井副会長	<p>委員の皆さまからの、それぞれの活動に基づく、様々なご意見を伺って、改めて、地域福祉計画の重要性を感じている。</p> <p>ボランティア連絡協議会の立場としては、最近では、養成を受けていないとできないボランティア活動があるので、そういったものの養成講座を、市や社協などで開いていただけたらありがたいと思っている。</p>
前橋会長	<p>皆さま、ありがとうございました。</p> <p>まず、それぞれの活動や認識に基づいた、地域福祉を推進する方向でのご意見に感謝申し上げます。このように集まる場があって、意見を述べ合う時間があるということは、とてもありがたいことだと思う。また、事務局におかれても、各委員からの言葉を、誠実に、大切に、内容に反映させていただいており、ありがたいと感じている。提言書の提出まであと一息なので、もう少し、力を合わせて頑張っていければと思う。</p> <p>私は、子どもたちに関わる仕事をしているが、その中で、できることを、できるときに、できるものからやってみよう、考えたら実行に移してみよう、と働きかけている。また、困っている人がいたら、ちょっと工夫して、手伝ってみるよう促したりもしている。福祉教育という視点はとても大切であり、所沢市でも、今後も進めていけたらと思っている。</p> <p>仲田委員の仰っていた「スポーツを通じての福祉」ということに関しても、子どもたちからの、親子のじゃれつきあそび、ふれあいあそびや親子体操など、また、学校における放課後のあそびやスポーツ等を通じて、子どもの時代から人と関わって遊ぶことが必要であり、子ども自体の交流体験の機会がなければ、大人の側が福祉教育を進めようと思っても、なかなか理解も進まないと思っている。</p> <p>また、若い世代の委員の募集や、関わり合いについても、岡村委員から「中学生」というキーワードが出たが、現在の地域福祉計画を作り、伝えていくにあたっては、子どもたちにもわかるような内容にしたいと考えて、取り組んできた。今後の地域福祉計画の取り組みの中でも、ぜひ、子どもたちも巻き込んだ展開や、いろいろな活動がなされていけば</p>

	<p>よいと思っている。</p> <p>では、提言書を提出するにあたっての、これからのスケジュールについて、事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>本日の会議で協議いただいた提言書は、3月14日（金）午後4時（3月19日（水）午後2時に変更）から、市長に手渡す予定である。</p> <p>提言書の内容については、前橋会長・柴井副会長とともに、本日の会議を踏まえての最終調整をさせていただき、提出前の最終案としたものを、2月末をめどに、委員の皆様にお送りして、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>また、提言書の提出については、前橋会長・柴井副会長と、ご都合のつく委員の方とともに、市長に渡すこととしたい。なお、人数を確定しておきたい都合もあるため、事前にご参加の可否を確認させていただきたいので、各委員におかれては、2月中に事務局までご連絡をお願いしたい。</p> <p><u>(3) その他</u></p>
前橋会長	事務局からご説明をいただきたい。
佐藤主査	<p>ご存知のとおり、委員の皆さまの任期は、平成26年11月末までとなっている。これまで、第1期、第2期の委員会では、3年間の任期の最後に、提言書をまとめてきたが、今期は、来年度に予定する次期計画の策定作業につなげられるように、との視点から、少し繰り上げた形で、今年度中に提言をまとめることとして、検討を進めてきた。</p> <p>来月、市長あてに提言書を提出することで、一区切りの付く感もあるかと思う委が、来年度についても、11月末までの期間中に会議を開催することができればと考えている。</p> <p>具体的な内容・日程については未定だが、決まり次第、改めてお知らせしたい。</p>
前橋会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、本日の議題についてはすべて終えたので、事務局にお返しする。</p>
北田課長	<p>4. 閉 会</p> <p>閉会を宣言した。</p>